

各 位

会 社 名 アクモス株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 飯島秀幸  
(JASDAQ・コード 6888)  
問 合 せ 先 執行役員 経営企画室長 中川智章  
電 話 番 号 03-5217-3121

## 第 24 期経営計画に関するお知らせ

当社は、平成 26 年 8 月 7 日発表の「平成 26 年 6 月期 決算短信」において、第 24 期(平成 26 年 7 月 1 日～平成 27 年 6 月 30 日)の業績予想を発表いたしました。その業績予想の根拠となっております、第 24 期の経営計画について、下記の通りお知らせいたします。

### 記

#### 1. 事業環境と中期経営計画の位置づけ

我が国の経済環境は、政府の経済政策や日銀の金融政策により、円高是正傾向と株式市場が堅調に推移し、景気は緩やかな回復がみられました。一方で、消費税増税後の消費の落ち込みや、中国などの新興国経済の景気減速により、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの主要事業である情報技術事業においては、企業のシステム更新や設備投資の再開などにより緩やかな回復が見られておりますが、市場内の競争や顧客からの単価引き下げ要求もあり、厳しい事業環境が続いております。

このような状況の下、当社グループでは第 23 期からの 3 カ年における中期経営計画を策定し、事業に取り組んでまいりました。この 3 年間で再生から成長、創造への期間と位置づけ、3 年間でサービス価値の向上を図り、持続的・創造的イノベーションを可能とする事業基盤を構築するとともに、安定収益の確保を目指しております。

#### 2. 第 24 期 経営計画の概要

第 24 期は、第 23 期において中期経営計画の年度テーマ「再生」に基づき取り組みを始めた施策の実行を引き続き進めてまいります。また、第 24 期の年度テーマ「成長」を目指して、当社グループの成長につながる積極的な戦略展開に重点を置き、基本方針を策定いたしました。

##### (1) 基本方針

###### ① 成長分野の取り込み

主に茨城地区で提供していた Java/Android 開発事業、アライアンス活用によるクラウド構築サービスについて、首都圏地区へ本格的に進出してまいります。また、公共分野で展開していた **SYMPROBUS** 事業の基礎技術を活用し、新市場・新業種へ横展開いたします。新市場における営業展開は、本社に設置したソリューション統括センター「首都圏センター」を中心に行ってまいります。

###### ② 既存事業の収益力強化

開発事業においては、成熟分野の専門性強化と収益力アップ、**SYMPROBUS** 事業の収益事業化を推進してまいります。また、運用事業においては、人材配置の適正化、IT サービスマネジメントの標準化、クラウド化への適応を図り、最適化を進めてまいります。

###### ③ 迅速な意思決定体制とリスクマネジメント

時流や環境変化に適応した組織体制構築のため、営業組織の首都圏への設置、責任と権限の明確化にむけたラインマネージャ職の導入や業務執行権限の見直し、事業本部内におけるリスクマネジメントの強化を行い、組織管理体制を強化してまいります。

(注)本資料に含まれる将来の計画に関する記載は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報及び将来の事業環境にかかわる仮定に基づき作成しており、実際の業績は様々な要因により計画と異なる場合があります。

④ ロードマップによる社員のステップアッププラン

戦略重視型の人材育成を進めるとともに、人事制度を刷新し、社員の成長の可視化と目的意識の向上、キャリアサポートの充実を図ってまいります。

具体的には、まずアクモス株式会社において新人事制度に基づく人事及び評価を実施し、アクモス株式会社の制度をもとにグループ各社の業態に適合した人事制度の刷新を予定しております。

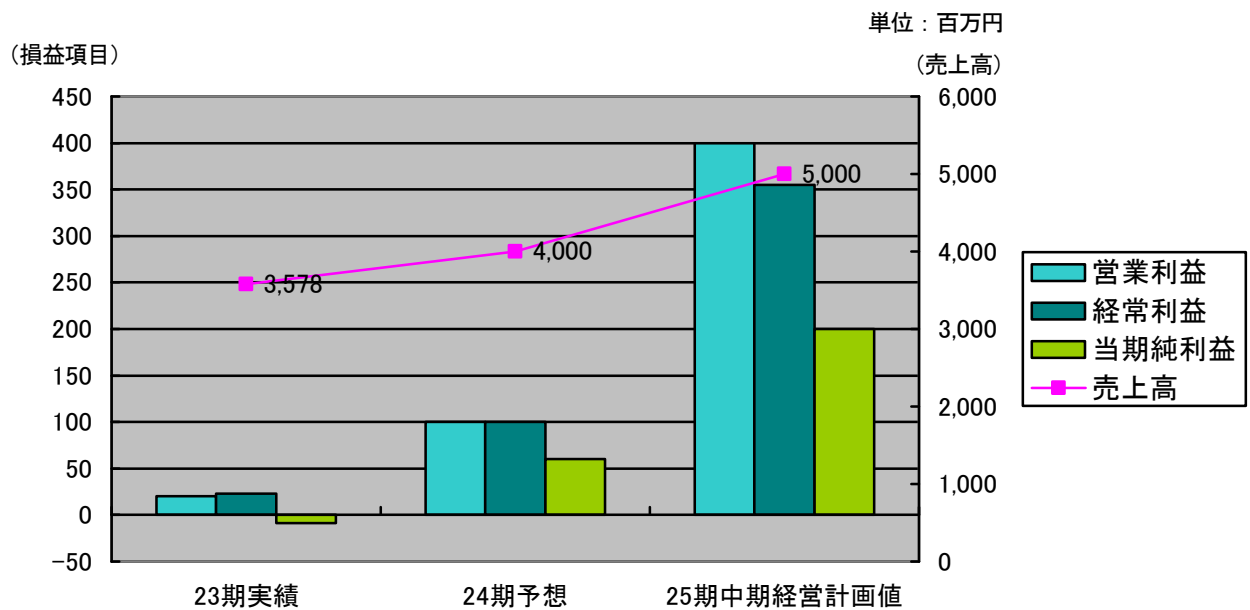
(2)経営目標(定量目標)

	第23期 (平成26年6月期) 実績	第24期 (平成27年6月期) 予想	第25期 (平成28年6月期) 中期経営計画値
売上高	3,578百万円	4,000百万円	5,000百万円
営業利益	20百万円	100百万円	400百万円
経常利益	23百万円	100百万円	355百万円
当期純利益	△9百万円	60百万円	200百万円

経営目標は、経営環境の変化に対応するため、向こう3年間の目標数値を毎期見直すローリング方式を採用しております。

第24期において、消防通信指令システム開発プロジェクト6件の納入を予定しております。これにより、ITソリューション事業を中心に売上が前年より11%程度増加することを見込んでおり、利益の回復が見込まれることから、営業利益についても増加を予定しておりますが、大型プロジェクトの開発工数を見直した結果、当初の中期経営計画上の営業利益額を改め100百万円としております。

■3ヵ年推移■



以上

(注)本資料に含まれる将来の計画に関する記載は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報及び将来の事業環境にかかわる仮定に基づき作成しており、実際の業績は様々な要因により計画と異なる場合があります。